

聴 解 ・ 会 話 7

酒井 たか子

Listening Comprehension and Conversation 7

SAKAI Takako

1. クラスの概要

聴解・会話7は、日本語補講の中で一番レベルの高い授業であり、日本語能力試験では1級から2級上の程度の学習者である。留学生センターの開設授業数の都合から、以前は会話、聴解を別々に2クラス開講していたのを1つにしたため、両方を含めることになった。時間数は、週1コマ10週間、受講者は期により異なるが12、3名から20名前後である。学習者の中には2期、3期と継続して出席する学生も多いため、授業内容が重ならないようにし、学期ごとに学生の希望やニーズにより変えている。日本語・日本文化研修留学生（以後、日研生）が受講者の過半数を占める1学期、3学期には日本の文化的な内容を多く扱い、韓国、中国など漢字圏の研究生や大学院生が多い2学期には発表形式での会話練習を中心とする。また授業に地域研究科日本語教育専攻の大学院生等が教育実習やボランティアとして参加し、さまざまな面での協力を得ている。

2. クラスの目標

聴解に関しては、講義、テレビ、ラジオなど生のものから必要な情報を正しく捉えられること、微妙なニュアンスの違いなどを理解すること、会話に関しては大学生として適切な話し方が場面に応じてできるようにすることを目標としている。また、広いジャンルでの語彙の拡充を図ることも目標のひとつである。

3. 学習者の特徴

学習者の日本語力としては、コミュニケーションは自分なりにこなせる段階で困ることはほとんどないが、正確さや語彙力の不足、発音などにおいて上の段階に進めないと感じている学生が多い。

4. 授業の方針

授業はひとつのきっかけであり、自律学習への足がかりとなるように心がけている。週1

回10週間では時間が足りず、授業時間以外に周囲の日本人を上手く「利用する」方法やアドバイスを積極的に行うようにしている。学習者の中には、授業が日本語を使う唯一の機会だというものもある。そこで日本人と話す機会を無理矢理にでも作るために、研究室や宿舎でインタビューさせる課題を出すなどして相手になってもらうことから始めることもある。

5. 授業開始時のアンケート調査

学習者のニーズが大きく変わるために、初めに学習者に希望や学習環境等を把握するための調査を行う。以下は2003年2学期のものである。

アンケートの結果 2003年2学期

16名：韓国8 中国2 台湾2 カナダ1 スロベニア1 ロシア1 マレーシア1

1. 聴解と会話のどちらに重点をおいてほしいか。

聴解 5人
 会話 10人
 両方 1人

2. 会話でやりたいこと (2つまで選択)

フォーマルなスピーチ 8人
 フォーマルに話す会話 (面接など) 7人
 発音練習 6人
 インフォーマルな会話 (友だち) 5人
 フォーマル・インフォーマルの使い分け 5人

3. 聴解で取り上げたいもの (3つまで選択)

ドラマ 10人
 映画 8人
 ニュース 7人
 アニメ 6人
 詩 3人
 歌 2人
 その他 電話の会話

4. 今難しいと思っていること

語彙、方言、年齢の高い人の話、こどもの話

5. 授業時間外に宿題をするために

録音するときに相手になってくれる日本人の友だち

いる：8人 いない：8人

聴くためのテープレコーダ ある：12人 ない：4人

録音できるテープレコーダ ある：9人 ない：7人

6. 授業の内容

学期により異なるが、以下のような内容を組み合わせて行っている。

6-1 要点を聞き取る練習

ラジオの政治、経済、社会、科学、医学などさまざまなジャンルのニュースから、内容の要点を聞き取ることおよび語彙や表現の拡充を目指す。特に、音から意味を考えて漢字を推測する練習、先を予測する練習を取り入れる。その時に話題になっていることを取り上げることで、授業外での聴解や会話に生かすこともねらっている。一部を授業で取り上げて背景知識などを解説し、残りは自習させて翌週その部分を含めたクイズを行う。また話題によっては文化的なトピックとしてディスカッションに繋げることもある。

6-2 音声からの語彙力を拡充する練習

似た音のことばを出しておき、音声で与えた文の中に入っていることばを判断させる。

例 支持 知事 自治 師事 時事 私事

- ①選挙ではだれが（知事）になりそうですか。
- ②選挙ではだれに投票しると（指示）されましたか。
- ③選挙では誰を（支持）しますか。

6-3 日本人の主張のしかた、意見の言い方の特徴に気付かせる練習

対談などスクリプトのないものを使って、日本的な対話のしかたなどに注意させながら聞き取り練習を行わせる。文を最後まではっきり言わない話し方、躊躇しながらの主張などから意図を汲み取らせる。

6-4 音の変化に気づかせる練習

「入んなよ」が「入りなよ」の誘いなのか「入るなよ」の禁止なのか、「話しゃわかる」が「話せばわかる」か「話はわかる」か、などは上級になっても聞き誤ることが多い。とくに間違えやすい音を取り出して体系的にルールを説明して練習を行う。

6-5 微妙なニュアンスまで気付かせる練習

ドラマ、映画、アニメなどスクリプトのあるものを、テープからの文字化を行わせ、細かな部分まで注意させる。ンの有無（～いいじゃない・～いいんじゃない など）や、「～てきた、～てた、～てった」のような似た音が前後のどこから分かるのか、文法的な意味の違いは何か、などについて意識させる。

6-6 発音練習「声優に挑戦」

ドラマやアニメをテープから文字化させたスクリプトを利用して、「声優に挑戦」という練習方法で発音練習として利用する。文字化の段階でも繰り返し聞いているものを、スピード、イントネーション、アクセントなどなるべくそっくり真似させてみる。各パートごとに集まって集中的に練習させた後、テープに吹き込ませる。

6-7 発表

このレベルでは文法や発音に関して自分で間違いや弱点に気づくことができることも多く、またそのような力も養いたい。ビデオに録画しノンバーバルな視線、体の動きなども含めてフィードバックを行う。スピーチの前に評価ポイントを学生と話し合っ決めて点数を出させることにより、広く自分のスピーチを客観的に見る姿勢を養う。「聞き手を意識した話し方ができたか」「主張したいと思ったことが伝わったか」などがその課題となる場合が多い。

6-8 ディベート

意見を述べる練習だが、相手の言い分を聞く、はっきりと主張するなどの練習とともに、日本的な相手を不快にさせないような反論の言い方などの練習も行う。

6-9 落語

日研究生が多い学期には、落語を教材として取り上げたところ、多様な登場人物（老若男女、侍から与太郎まで）の話し方、シンプルな空間の中でストーリーをビジュアルに描くこと、日本文化を凝縮した内容など面白い題材となっている。また落語会を鑑賞し、また小咄を実演させることもある。

7. 評価

評価は内容により異なるが、2003年の2学期は以下のような基準で行った。

聴解テスト	40%
最終スピーチ	20%
クイズ、クラスでのディベートなど	20%
宿題（聴解ディクテーション 日本人とのテープ録音など）	20%